

2021年度（2022年3月期） 決算の概要

数字は原則として単体ベース、単位未満切捨て



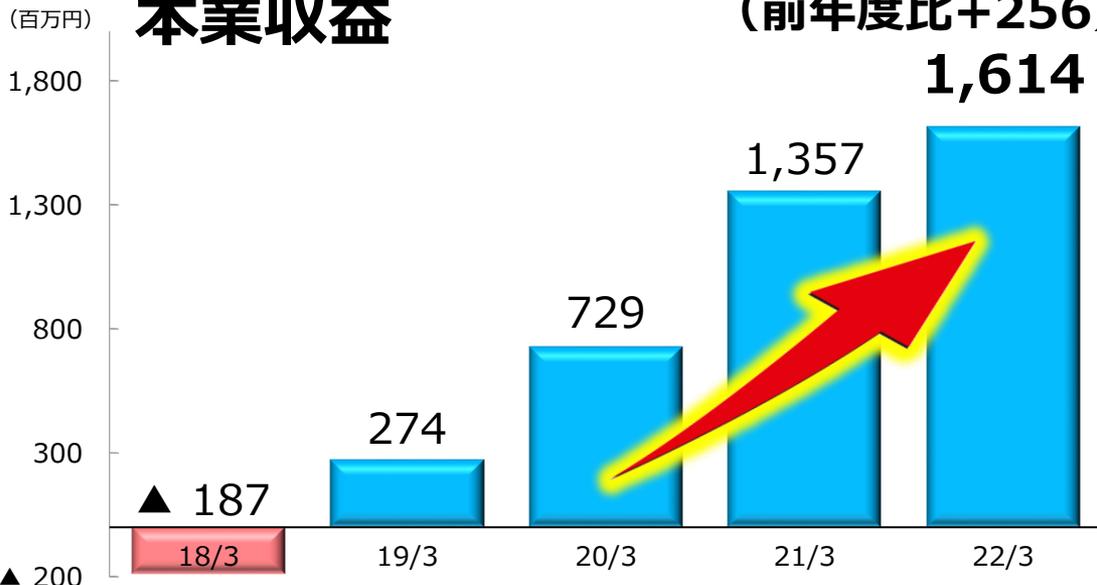
福島のために
お客さまのために
そして未来を育むために

1. 2022年3月期 決算トピックス	P. 1
4期連続 本業収益増加	P. 2
預金（NCDを含む）・預かり資産	P. 3
貸出（私募債含む）	P. 4
中期経営計画 数値目標（2021年4月～2024年3月）	P. 5
2. 2022年3月期 決算の概要	P. 6
2022年3月期の実績	P. 7
預金（NCDを含む）・預かり資産	P. 8
貸出（私募債含む）	P. 9
有価証券	P. 10
健全性	P. 11
2022年度（2023年3月期）の決算予想	P. 12
3. SBIグループとの連携	P. 13
4. 2021年度の主な取組み	P. 15
5. 当行のプロフィール	P. 20

1. 2022年3月期 決算トピックス

本業収益

(前年度比+256)
1,614



4期連続 本業収益増加

金融機関の本来の収益力をあらわす**本業収益**(投信解約益を除くコア業務純益)は**1,614百万円**(前年度比+256百万円増加)

収益力強化が着実に進展

貸出金利息

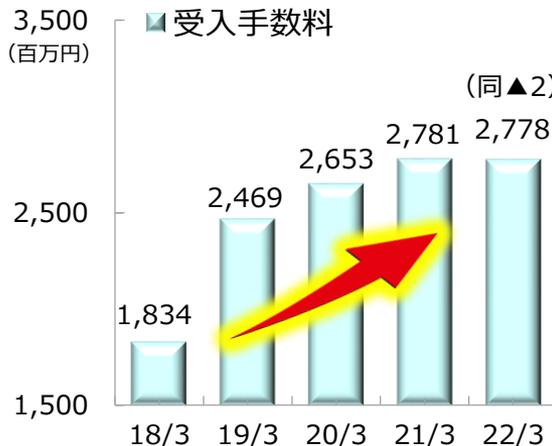
(同+187)
6,732



- コロナ対応融資を中心に地元中小企業へ積極的に対応し貸出金利息が増加

受入手数料

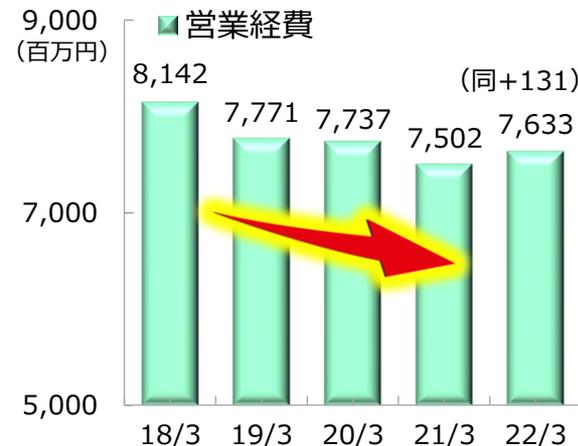
(同▲2)



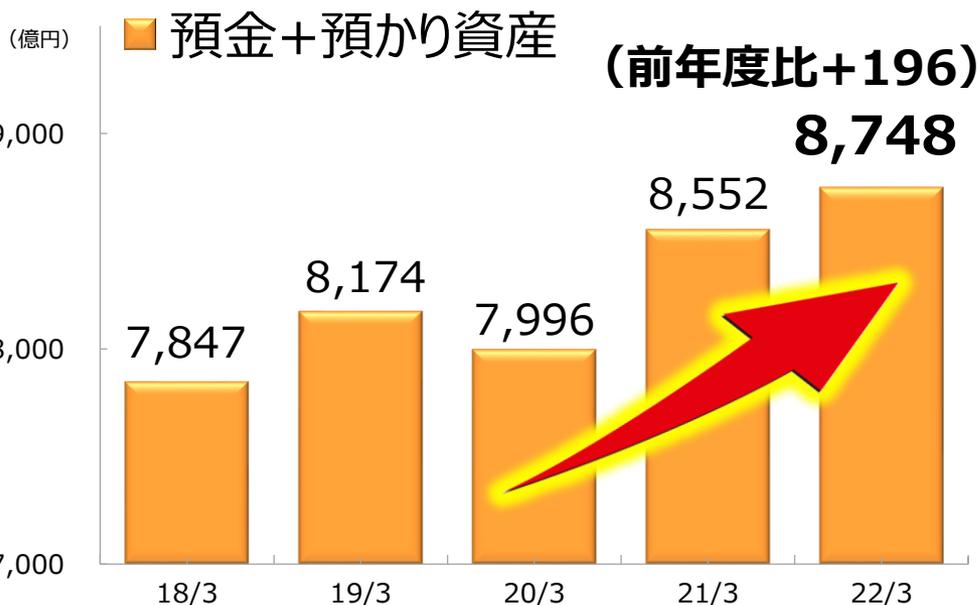
- 投信販売・金融仲介手数料などは増加したが、保険販売が減少

営業経費

(同+131)

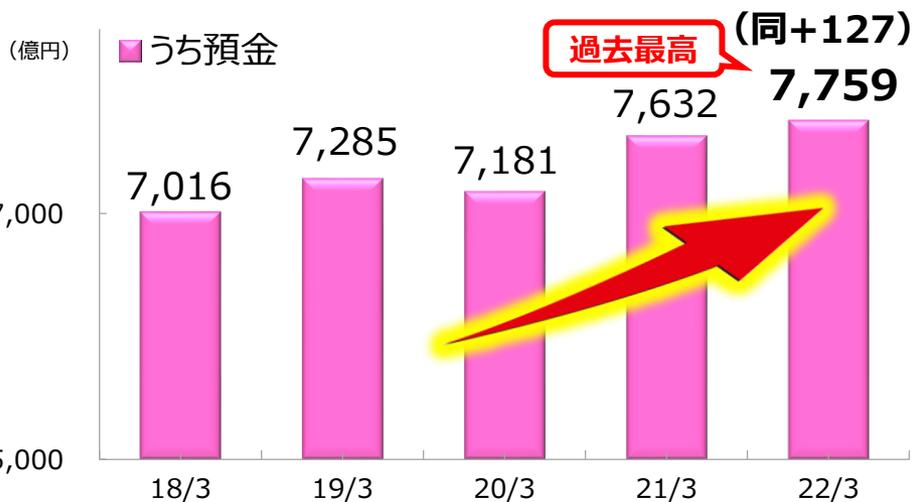


- PC1人1台化など行内DXの推進を図り物件費が増加



預金+預かり資産の残高は
8,748億円（前年度比+196
 億円増加）と、**法人預金**を中心に
 増加

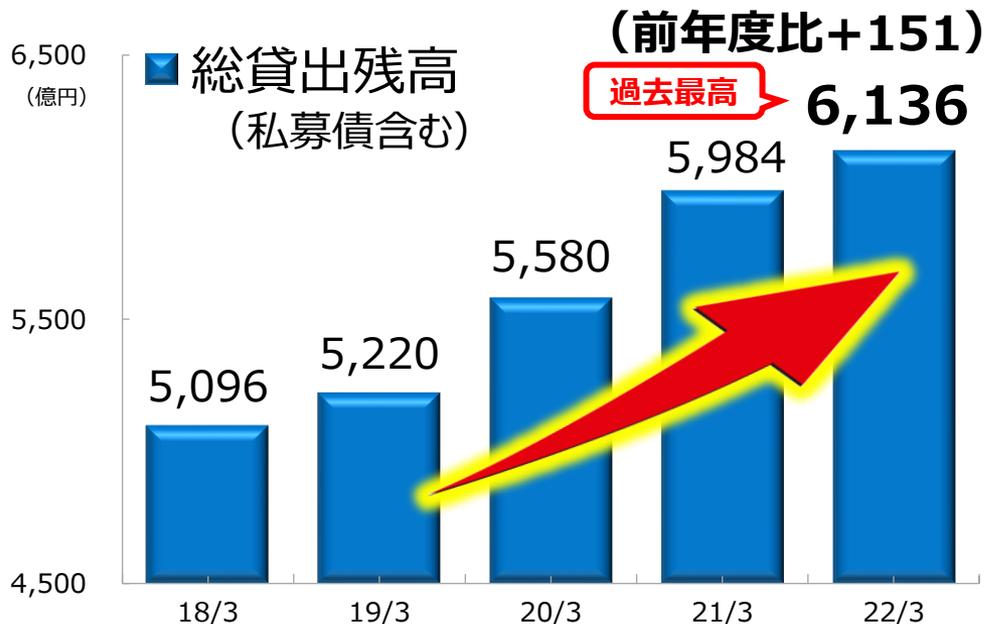
- 預金は、法人預金が+89億円増加したことなどにより、同+127億円増加
- 預かり資産は、同+68億円増加



● 事業性融資先数の増加などにより法人預金が増加



● 投資信託は同+51億円、保険は同+34億円の増加

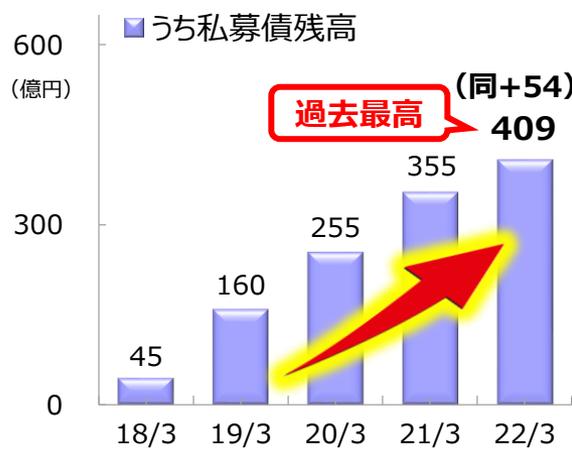


総貸出残高は、6,136億円
（前年度比+151億円増加）
事業性貸出や住宅ローンを中心
に増加

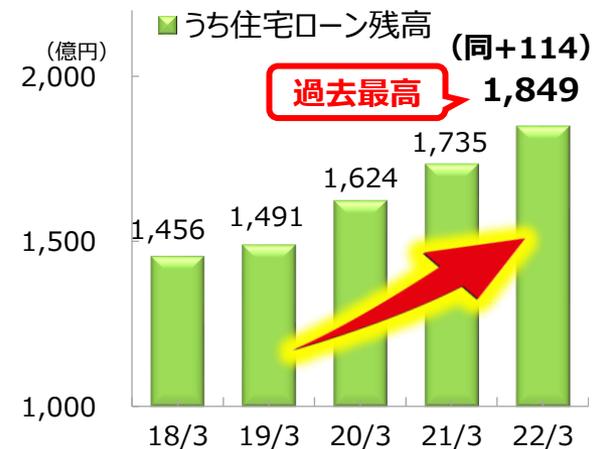
- **営業店事業性貸出残高は、同+22億円増加**と、コロナ対応融資を中心とした地元中小企業向けの資金繰り支援に対応
- **住宅ローン残高は、同+114億円増加**



- **コロナ対応融資を中心に地元中小企業へ積極的に対応し同+22億円増加**



- **SDGs危機管理サポート寄付型私募債など私募債受託が同+54億円増加**



- **ソリューションプラザ、ローンプラザを中心に住宅ローンを推進し同+114億円増加**

2023年度 (2024年3月期) 目標

本業収益



10億円

10億円以上の安定した
本業収益を確保する

OHR



4% 改善

2020年3月期対比
OHR4%の改善を図る

※ 2020年3月期OHR実績83.91%(単体ベース)
※ OHR(経費率) = 営業経費 / 業務粗利益
(日銀特別当座預金制度に基づくOHR)

事業性融資先



6,000先

うちメイン先1,250先
以上を目指す

※ メイン先：融資シェア1位をメイン先と定義

2020年度 (2021年3月期) 実績

13億円

実績 77.37%

7.79%改善

5,555先

うちメイン先1,139先

2021年度 (2022年3月期) 実績

16億円

実績 75.77%

9.70%改善

5,639先

うちメイン先1,245先

2. 2022年3月期 決算の概要

単体

(単位：億円)

	22/3	21/3	前年度比
1 経常収益 (①+⑦)	107	111	▲4
2 業務収益①	104	107	▲3
3 貸出金利息	67	65	1
4 有価証券利息配当金②	7	13	▲6
5 (A)投信解約益	-	7	▲7
6 受入手数料	27	27	▲0
7 国債等債券売却益②①	0	-	0
8 業務費用③	89	111	▲22
9 一般貸倒引当金繰入④	0	4	▲3
10 国債等債券売却損・償還損・償却⑤⑥	0	20	▲19
11 営業経費	76	75	1
12 人件費	35	35	0
13 物件費	35	34	0
14 業務純益⑥ (①-③ (金銭の信託見合費用除く))	15.2	▲3.6	18.8
15 (B)コア業務純益 {⑥- (②-⑤) +④}	16.1	20.7	▲4.5
16 本業収益 (投信解約益除くコア業務純益) (B)-(A)	16.1	13.5	2.5
17 臨時収益⑦	2	3	▲0
18 株式等売却益①	0	0	▲0
19 貸倒引当金戻入益	-	-	-
20 臨時費用⑧	10	17	▲6
21 個別引当金繰入額	9	6	3
22 株式等売却損・償却②	0	9	▲9
23 臨時損益⑨ (⑦-⑧)	▲7	▲13	6
24 経常利益 (⑥+⑨)	7.2	▲17.5	24.8
25 特別損益	0	0	0
26 当期純利益	8.2	▲17.4	25.6
27 不良債権処理費用	9.5	10.3	▲0.7
28 有価証券関係損益 (⑦+①-⑥+③-②)	6.9	▲15.5	22.5

22年3月期 損益状況

22年3月期は減収増益。本業収益は4期連続増加

● 業務収益は104億円 (前年度比▲3億円減収)

- ・ 貸出金利息はコロナ対応融資を主因に貸出金平残の増加により同+1億円増加
- ・ 受入手数料は、投信販売や金融商品仲介手数料が増加したものの保険販売が減少し、ほぼ横ばいの同▲2百万円

● 業務費用は89億円 (同▲22億円減少)

- ・ 国債等債券売却損・償還損は、昨年度実施したロスカット等の影響がないため同▲19億円減少
- ・ 営業経費は、デジタル化進展のためPC1人1台化や減価償却費等の増加により同+1億円増加

● 業務純益は15.2億円、コア業務純益は16.1億円

- 金融機関の本来の収益力をあらわす**本業収益** (投信解約益を除くコア業務純益) は**16.1億円 (同+2.5億円増加)**と、**4期連続で着実に増加**

● 経常利益は7.2億円 (同+24.8億円増加)、繰延税金資産を計上し、当期純利益は8.2億円 (同+25.6億円増加)

- 不良債権処理費用は、コロナ禍による予防的引当や、東日本大震災後に進出した県外企業などへの引当実施により9.5億円計上

- 預金と預かり資産を合わせた残高は、8,748億円（前年度比+196億円増加）
 - ・ うち預金残高は、7,759億円（同+127億円増加）。預かり資産残高は、988億円（同+68億円増加）
- 預かり資産の販売額は、ほぼ横ばいの286億円（投信が同+38億円増加したものの、保険は同▲35億円減少）
- 預かり資産の販売手数料は、ほぼ横ばいの11.5億円（投信および金融商品仲介手数料が同+1.3億円増加、保険が同▲1.2億円減少）

預金 + 預かり資産 残高推移

(億円)

	19/3	20/3	21/3	22/3	前年度比
預 金	7,285	7,181	7,632	7,759	127
個人	4,928	4,902	5,032	5,025	▲6
法人	1,760	1,789	2,108	2,198	89
地公体	429	445	450	466	15
預かり資産	889	814	919	988	68
投 信	416	306	362	413	51
保 険	432	475	530	551	21
公共債	40	32	27	22	▲4
合 計	8,174	7,996	8,552	8,748	196

預かり資産 販売額推移

(億円)

	19/3	20/3	21/3	22/3	前年度比
投 信	170	196	171	209	38
保 険	104	87	111	75	▲35
公共債	4	1	2	1	▲1
合 計	279	284	285	286	1

預かり資産 販売手数料推移

(億円)

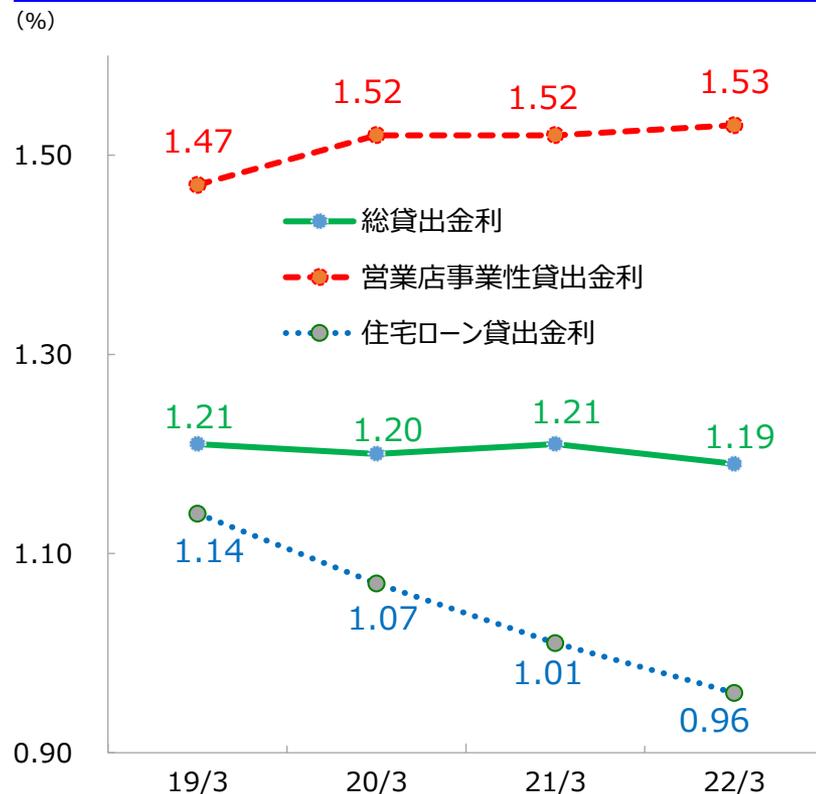
	19/3	20/3	21/3	22/3	前年度比
合 計	10.9	10.0	11.4	11.5	0.0

- 貸出残高（私募債含む）は、6,136億円（前年度比+151億円増加）
 - ・ 事業性貸出（私募債含む）は、新型コロナウイルス対応融資の増加により、同+68億円増加
 私募債は、21年度に141件（99億円）を受託し、同+54億円増加
 - ・ 消費性貸出については、住宅ローン実行の増加により、同+107億円増加
 - ・ 中期経営計画の数値目標にある事業性融資先数は5,639先、同+84先増加（24年3月末目標6,000先）
- 貸出平均約定金利は、営業店事業性貸出金利が1.53%へ上昇するも、住宅ローン貸出金利が0.96%に低下し
 総貸出金利は1.19%

貸出 残高推移

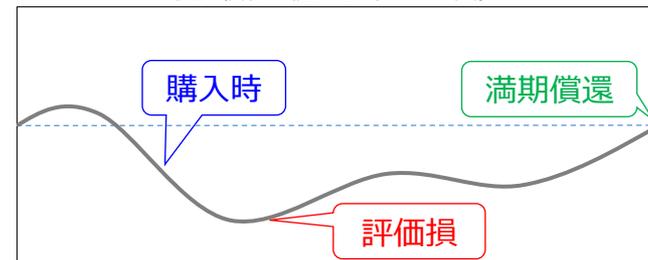
	19/3	20/3	21/3	22/3	前年度比
(億円)					
事業性	2,219	2,561	3,028	3,097	68
営業店	1,770	1,865	2,258	2,281	22
私募債	160	255	355	409	54
本部	287	440	414	406	▲8
消費性	1,797	1,920	2,012	2,120	107
住宅ローン	1,491	1,624	1,735	1,849	114
消費者ローン	286	278	263	257	▲5
総合口座貸越	18	17	14	13	▲1
地公体	1,018	935	808	800	▲7
その他	186	163	135	117	▲17
合計	5,220	5,580	5,984	6,136	151
平 残	5,120	5,255	5,791	6,019	228
事業性融資先数	4,880	5,117	5,555	5,639	84

貸出平均約定金利



- 有価証券の残高は1,560億円（前年度比+105億円増加）
 - ・ 債券中心の運用方針の下で国内債が増加
- 有価証券の評価損益は▲28億円（同▲32億円減少）
 - ・ 金利上昇により保有している債券等の評価損が拡大
 - ・ ただし、投資対象は高格付けの国債や地方債等中心で元本毀損リスクは極めて低く、満期時には満額償還される
- 債券のデュレーションは9.7年（同+0.1年でほぼ横ばい）
- 有価証券の運用利回りは0.51%（投信解約益の減少等により同▲0.53%低下）
 - ・ ただし、投信解約益を除いた有価証券運用利回りは、ほぼ横ばい

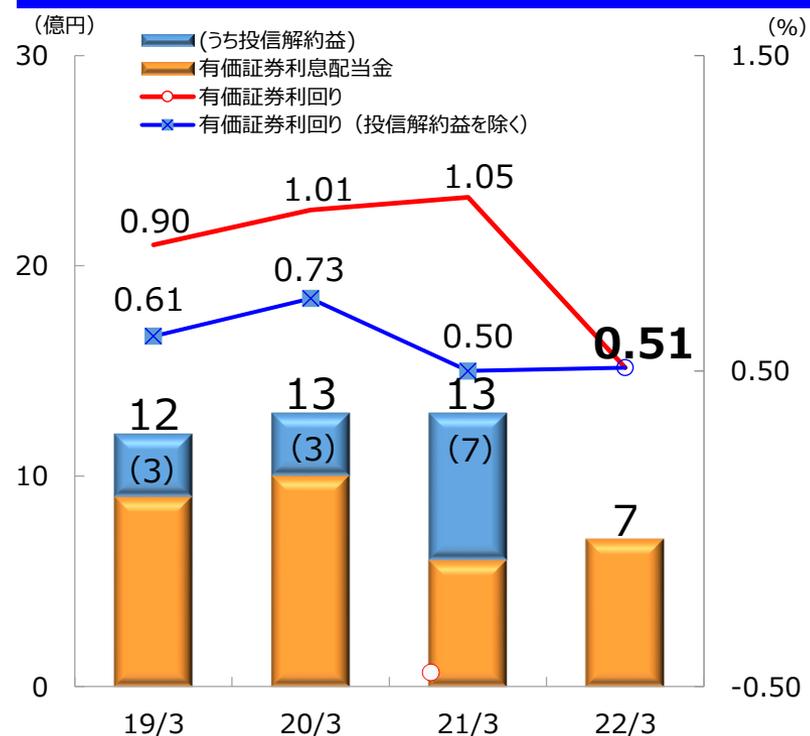
債券価格の値動き（イメージ図）



有価証券 残高推移

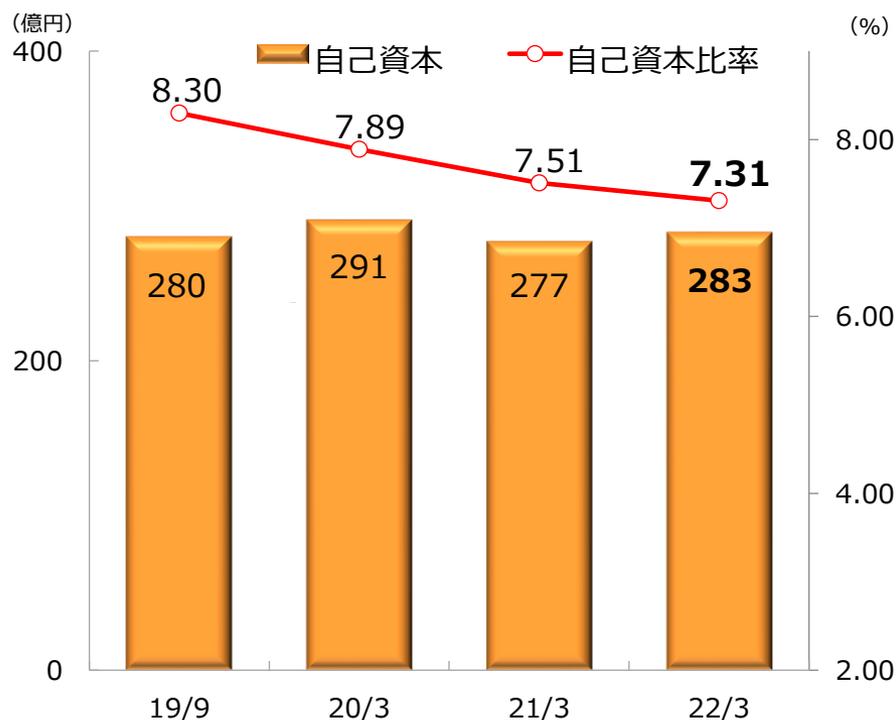
	19/3	20/3	21/3	22/3	前年度比
債券	689	498	745	867	122
国内債	634	461	709	844	135
外国債	55	36	36	22	▲13
投資信託	589	657	675	649	▲25
外債型	192	439	675	649	▲25
株式型	212	99	-	-	-
その他	184	118	-	-	-
株式	46	33	21	20	▲0
その他	47	12	13	23	9
合計	1,372	1,201	1,455	1,560	105
保有有価証券の評価損益	▲15	▲40	3	▲28	▲32
債券のデュレーション(年)	5.3	5.6	9.6	9.7	0.1

有価証券利息配当金と有価証券利回り



- 自己資本比率は、地元企業に対する積極的な資金繰り支援など貸出金の増加を主因に7.31%（前年度比▲0.2%）。連結自己資本比率は、7.72%。国内基準（4%以上）を上回る水準を維持。
- 金融再生法開示債権は、119億円（同+3億円増加）
金融再生法開示債権比率は、1.94%（同+0.01%）と低水準を維持
- 不良債権処理費用（与信関連費用）は、コロナ禍による予防的引当の実施により9.5億円（同▲0.7億円減少）

自己資本比率



金融再生法開示債権比率



不良債権処理費用（与信関連費用）

(※) 一般貸倒引当金繰入額 + 個別貸倒引当金繰入額
+ 貸出金償却等 - 貸倒引当金戻入額

19/3	20/3	21/3	22/3	前年度比
4.7	0.7	10.3	9.5	▲0.7

- 2022年度（2023年3月期）は、本業収益の着実な増加を図り、前年度同程度の当期純利益を見込んでおります。
- 2021年度（2022年3月期）の配当は、当期純利益が計画を上回り、また株主の皆さまへの負託に応えるため、1株あたり2円の復配を予定していましたが、5円とさせていただきます。
2022年度（2023年3月期）の配当も、1株あたり5円を予定しています。

2022年度（2023年3月期）決算予想

(億円)

		20/3月期 実績	21/3月期 実績	22/3月期 実績	23/3月期 予想
単 体	経 常 収 益	113	111	107	107
	経 常 利 益	4	▲17	7	8
	当 期 純 利 益	3	▲17	8	7
連 結	経 常 収 益	134	133	131	129
	経 常 利 益	4	▲17	7	9
	親会社株主に帰属する 当期純利益	4	▲17	8	7

3. SBIグループとの連携

～ 2021年度の手数料収入において1.8億円超の増加に貢献 ～

個人	利便性向上 AI導入	● AIプラットフォーム『DataRobot』で開発したAIの導入	AIでビックデータを分析することにより、お客さま一人ひとりのニーズに沿った金融商品の紹介をするなど営業を高度化
	資産形成	● 共同店舗「福島銀行SBIマネープラザ郡山」の運営	ネット証券最大手であるSBI証券の金融商品・サービスを、対面による質の高いアドバイスと共に利用可能
	利便性向上 DX導入	● バンキングアプリの提供	アプリでの口座開設（来店不要、印鑑不要、通帳レス）や、家計簿アプリ「一生通帳by Moneytree」を提供
	利便性向上 DX導入	● 住信SBIネット銀行の『ミスター住宅ローンREAL』および『フラット35』の提供	当行ホームページから、住信SBIネット銀行の住宅ローンの各種申込手続等がWEB上で利用可能
個人・法人	補償の充実 低コスト	● SBI損保の「自動車保険」「火災保険」の提供	WEBで完結する「自動車保険」や、住宅ローンのお客さまが必要な補償を自由に選べる「火災保険」を提供
	補償の充実	● 住宅ローンおよび各種ローンに団体信用生命保険を付保	住宅ローンのほか、事業者、医療従事者および個人向けの各種ローンに団信を付保し、万が一の時に備えた安心を提供
法人	本業支援	● 吉本興業ホールディングスと「お客さま紹介」で連携し地方創生に貢献	福島県住みます芸人「ぺんぎんナッツ」さんと、地方創生をコンセプトにする「BSよしもと」の番組を通して、福島県の魅力やお取引先の事業活動・サービス・商品等を全国に情報発信
	本業支援 DX支援	● 『ふくぎんビジネスマッチングシステム』（ふくぎんBMS）の提供	お取引先のビジネスマッチングニーズ等を登録・データベース化し、高精度で成約確度の高い販路開拓や事業課題の解決等を実現
	業務効率化 DX支援	● クラウド型ワークフローシステム「承認Time」、「経費Bank II」、および「勤怠Reco」の提供	社内のあらゆる書類の申請、承認、回覧、保管を電子承認フローに載せられるクラウド型ワークフローシステムを提供
	利便性向上	● SBIレミットの海外送金サービスの提供	地域企業が抱える外国人労働者のために、簡単で利便性の高い海外送金サービスを提供
	人材支援	● 理系人材の採用支援サービスの提供	地域企業が必要とする技術職・研究職などを、理系人材マッチングサービスにより採用を支援
	人材支援 DX支援	● スキマバイトサービス「タイミー」の提供	アルバイト人材が必要な企業と、働きたい人の時間をスマホアプリでマッチングさせ多様な雇用形態を支援

4. 2021年度の主な取組み

100周年記念
ふくぎん10の感謝



100周年記念 ふくぎん10の感謝

福島銀行は、2022年11月27日に創業100周年を迎えます。
これは、お客さま、株主さまをはじめ、当行に関わって頂いた多くの皆さまのご支援、ご協力の賜物です。
そこで、皆さまへの感謝の気持ちをこめて、3年間にわたり「100周年記念 ふくぎん10の感謝」を実施します。

福島のために
お客さまのために
そして未来を育むために

おかげさまで福島銀行は、2022年11月に100周年を迎えます。
福島銀行は、これからも福島と共に歩んでまいります。

1 本業支援100の課題解決 「ふくぎんビジネスマッチングシステム(BMS)」実施 2021年10月～

期間中プロジェクトチームを設置し、クラウド型のシステムを用いて、お客さまの100の課題解決に向け、全力をあげて支援します。



2 「ふくぎんSDGs宣言」の制定 2022年1月

「ふくぎんSDGs宣言」を制定し、社会の課題、経済の課題、自然環境の課題などについて積極的に取り組み、事業活動を通して、地域経済・地域社会の持続的な発展に貢献してまいります。



営業店や部署ごとにSDGsの目標を掲げ、私たちが暮らす地域のよりよい環境と暮らしやすい社会づくりに貢献します。

3 「障がい者施設製品大展示即売会」の開催 2022年12月～

2012年から開催している「障がい者施設製品大展示即売会」についてカタログ販売を含め実施し、販売活動を応援します。



4 「公益信託 福島銀行ふるさと自然環境基金」拡大版実施 2022年11月～

福島県内の自然環境保全を図り、自然と人間の調和のとれた社会づくりに貢献することを目的に、環境保護に取り組む団体へ助成します。(1先上限100万円)



5 ご融資を通してESG-SDGsに資する取組みを行っている団体や個人へ寄付 2021年10月～

「ふくぎんESGかんしゃレポート」募集額100億円達成後、環境問題や社会問題に取り組む団体などへ寄付します。(総額100万円)



6 福島県産品などが当たるくじ付き定期預金を通して福祉関連団体などへ寄付 2021年10月～

ふくしま応援定期預金「わくわくくじ」の残高に応じて、県内の福祉関連団体などへ寄付します。(上限30万円)



7 お客さま利便性の高いホームページリニューアル 2022年11月

福島銀行のホームページをより分かりやすく、より使いやすくりニューアルします。



8 福島の子ども応援新助成金の制定 2022年11月

子どもの学びや遊びなどを支援する団体を対象とした新たな助成金を制定します。



9 100周年記念講演会「福島の未来」開催 2022年10月～

福島県内の4会場(福島・郡山・いわき・会津)で福島の経済に資する記念講演会を実施します。



10 「ふくぎん100年ありがとう物語」発行 2022年10月

お客さまとの100年の間わりを通して受け取った「ありがとう」を一期にまとめ、感謝の思いを胸にさらなるサービスの向上を実現します。



私たちは来年の今日福島100周年を迎えます。
大正11年、現在のいわき市海本町に国民金融を旗印に掲げ、海
信用無尽が誕生しました。当時の福島県下は、小商工業者や
庶民生活を基盤とした地域金融機関はまだまだわずかで、それが
地元経済の発展を遅らせる要因の一つでした。こうした状況を
憂えた有志が集い、私たちが生まれました。
昭和初期の金融大恐慌、太平洋戦争、高度経済成長、ブルバブル経済
バブル崩壊後の長期不況、東日本大震災など、これまでの道りは、
決して平坦な道ではありませんでした。
昭和14年11月 福島無尽と手を携え、福島無尽(株)に商号変更
本店を福島市に移転。
昭和26年10月 相互銀行へ転換、福島相互銀行に発足
(平成元年7月、福島銀行に発足)
平成4年10月 東京証券取引所市場第2部(第二市場)
(平成8年9月、市場第1部へ指定)
平成5年11月 福島市万世町に現在地に新本店ビル新築移転
令和元年11月 SBIホールディングスと資本業務提携契約締結
東日本大震災から10年
私たちが暮らす福島の状況は変りました。ふるさとを分断され、
未だ福地でない多くの県民がいます。私たちは、福島で生きる
ことに誇りを持ち、県民の皆さまと共に、福島の発展し、そして
未来の福島を創生するために、歩みを進めてまいりました。
今私たちの社会は「コロナ禍」という未曾有の災いに直面されて
います。新たなウイルスとの取組み、まだ見ぬ課題、福島
創生に向けた私たちの果敢な役割は、これまでに増し大きく
なっています。
私たちは創業の理念である庶民金融、地域と共にある金融機関
として、これまで支えていただいた地域にお客さま、福島の存在、
全力で取り組むことをここに誓います。
おかげさまで100周年
福島のために
お客さまのために
そして未来を育むために
令和3年11月27日 福島銀行

創業100周年記念事業

● 100周年記念 ふくしま応援定期預金 「わくわくじら」

(2021年10月1日～2022年3月31日)

創業100周年記念事業の一環として、地元への感謝の気持ちを含めてご提供する定期預金です。

当行は、SDGsの取組みの一環として、障がい者の支援・ボランティア等に力を入れており、福祉活動を応援するため「わくわくじら」のお預り金額に応じて、福島県内の福祉関連団体等へ寄付を行います。

(預入累計4,283件 総額194億円)

2022年3月実績)

Fukushima Bank

100周年記念
創業100周年記念
100周年記念
100周年記念

福島銀行100周年記念
ふくしま応援定期預金

わくわくじら

2021年10月1日(金)～2022年3月31日(木)

ふくしま応援定期預金
お預り金額に応じて
福祉関連団体等へ寄付
いたします。

個人のお客さま 抽選で ふくしま逸品モールから選べる!
200名様へプレゼント!!

キャンペーン期間中に「ふくしま応援定期預金」をご契約いただいた個人のお客さまの中から合計200名様(50億円達成時100名、100億円達成時100名、計200名)に「ふくしま逸品モール」に掲載されている商品(5,000円相当)をプレゼント!!(お一人様1商品ととなります)
※抽選の抽籤結果は本行ウェブサイトでお知らせいたします。当抽選は抽籤日まで本行ウェブサイト上で抽籤結果を公開いたします。抽籤しない、抽籤後に当選と見做されません。

ふくしま逸品モールとは?
福島県内の福祉関連団体等へ寄付している
多岐にわたる商品が揃ったモールページを
提供しております。福島銀行で「ふくしま
応援定期預金」をご預りいただいたお客様の
皆様へご提供いたします。

ふくしま応援定期預金

0120-76-2940

福島銀行のアプリ
ダウンロード

福島銀行

SDGsの取り組み

● 行員ボランティア活動

地域社会の一員として、地域イベントのお手伝いや商店街・駅前等の清掃活動、海岸の清掃活動などに幅広く参加し、地域に根差した社会貢献活動を継続的に行っております。

(ボランティア活動 のべ1,213名
2022年3月実績)



● 「公益信託福島銀行ふるさと自然環境基金」助成

福島県における自然環境の保全を図り、自然と人間の調和のとれた社会づくりに資することを目的に1992年に設立され、以来今回で30回目の助成となり、助成先は81先、助成総額は1,882万円に達しております。



本木・早稲谷 堰と里山を守る会



はげっ子倶楽部



福島生き物探検隊

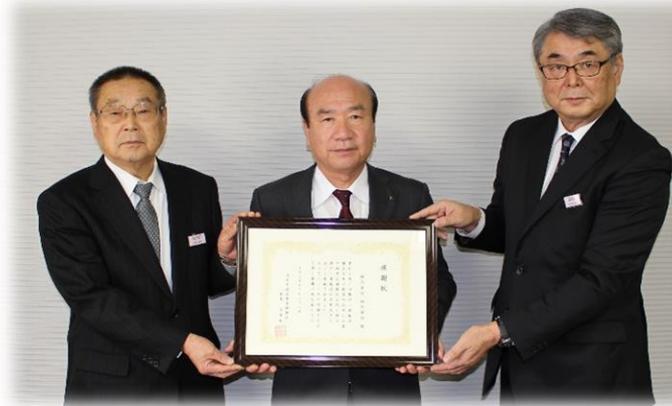


只見の自然に学ぶ会

● 第10回 障がい者施設製品大展示即売会

障がいをお持ちの方々の自立をサポートすることを目的に、例年県内の授産施設約90事業所が参加・出展され、本店地下大ホールにて大展示即売会を開催してきました。

今年も昨年に引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から「カタログ販売」（10/11～11/12）で実施し、大変多くのお客さま・お取引先にご購入いただきましたおかげで、総額514万円の過去最高売上額となり、授産施設事業の活動を支援することができました。（第1～10回の累計総売上額3,487万円）



福島県授産事業振興会様より感謝状の贈呈



第10回
手づくりのいいものいっぱい! 夢いっぱい!

障がい者施設製品 大展示即売会

今年は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、お客さまに安心して買い物を楽しんでいただけるよう、カタログでの受付となりました。詳しくは右記QRより商品をご確認ください。

お申込み期間 2021 10/11月▶11/12日

お申込み方法
カタログで商品確認後、裏面の申込用紙に記入のうえ、お近くの福島銀行の窓口へお持ちください。
詳しくは裏面をご覧ください

主催 福島県授産事業振興会 [参加施設] 県内50事業所 協賛 福島銀行 <https://www.fukushinbank.co.jp/>
お問い合わせ 福島県授産事業振興会 TEL.024-563-1228 FAX.024-563-1234 福島市彌山町8-30 福島県授産事業生白庁舎4階 <http://www.f-jusan.jp>

本社所在地	福島県福島市万世町2番5号
電話番号	024-525-2525（代表）
設立年月日	1922（大正11）年11月27日
資本金	186億円
株主総数	13,254名
従業員数	623名（うち正社員476名）
店舗数	57店舗（5出張所、2リリージョン [®] ラザ [®] 、 10-ショップ [®] ラザ [®] 、1ネット支店含む）
預金残高	7,759億円
預かり資産	988億円
貸出金残高	6,136億円（私募債含む）
自己資本比率	7.31%（単体）、7.72%（連結）
金融再生法 開示債権比率	1.94%
連結子会社	(株)ふくぎんリース&クレジット (株)東北バンキングシステムズ 福活ファンド投資事業有限責任組合

【2022年3月末現在】

（お問合せ先） 株式会社福島銀行 総合企画部 猪股徹也、市川清人 TEL 024-525-2525 FAX 024-536-5338

本資料には、将来の業績および計画等に関する記述が含まれております。こうした記述は、将来の業績に影響を与える不確実な要因によって将来実現する保証はなく、実際の結果と大きく異なる可能性があります。また、事業戦略や業績など、将来の見通しに関する事項には、一定のリスクや不確実性等が含まれております。

2021年度（2022年3月期）

決算の概要

《 当行の重点取組施策 》

本業支援

1. ふくぎんビジネスマッチングシステム（BMS）
2. 事業計画策定支援

D X 推進

3. 次世代バンキングシステム

～ ふくぎんビジネスマッチングシステム「ふくぎんBMS」のご提供 ～

- お客さまの販路拡大やビジネスマッチングなど課題解決をサポートいたします
- SBIが出資するリンカーズ社システム「ふくぎんBMS」に、お客さまの「ビジネスマッチングニーズ」を登録し、広域に配信することで、より成約精度の高いビジネスマッチングが実現

DX支援

● ビジネスマッチングニーズ例

- 売りたい（販路、受注、請負）
- 買いたい（仕入、外注）
- 人材採用、育成
- 事業承継
- 不動産（購入、売却、賃貸借、建設）
- 経営支援（労務管理、社内DX整備） など

● ご利用の流れ

- ① アカウント登録
- ② 有償契約を締結
- ③ マッチング成約

～ **銀行員が営業担当に** ～

当行営業店および契約企業間で、マッチング情報を連携

- 1人1台PCを利用し、課題解決策を検索・提案
- お客さま自身による検索・閲覧も可能



- 県内や当行取引先だけでなく広域に、お客さまの「ビジネスマッチングニーズ」を登録・配信することができ、より成約精度の高いビジネスマッチングが実現

事例 1

売りたい

・ 材木店が国産檜を活用した「ひのきミスト」を発売し、販路開拓先を探していた

買いたい

・ コロナ禍で、補助金が助成される除菌効果のある製品を探していた旅館業者や、子どもにも安心して使える除菌商品を探していた保育園を紹介しマッチング



材木店

● 国産檜を活用した「ひのきミスト
・おもちゃ・家具」等を販売

除菌効果のある「ひのきミスト」を使うと、お部屋の消臭やリラックス効果も期待でき、とても満足です。

(A 旅館様)

「ひのきミスト」は天然素材なので子ども達にも安心して使え、助かります。

(B 保育園様)

ふくぎんBMS

旅館業

助成金が補助される除菌効果のある製品を探していた



保育園

子ども達にも安心して使える除菌商品を探していた



事例 2

売りたい

・ 動画作成や編集を手掛けている広告制作会社が販路開拓先を探していた

買いたい

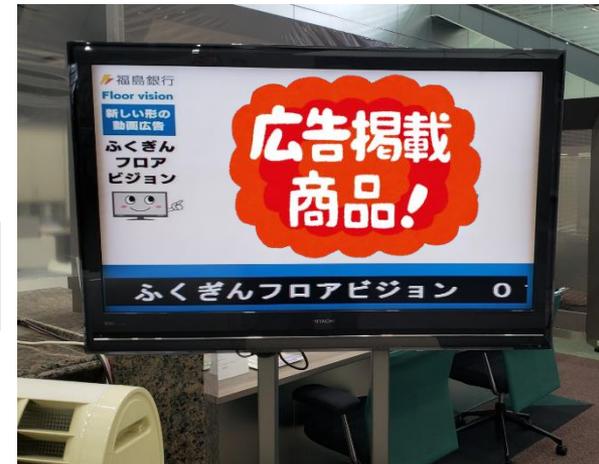
・ 当行店頭にあるフロアビジョンに流れる動画広告の作成先を探していた先に
広告制作会社を紹介しマッチング

WebサイトやテレビCMなどの動画撮影・編集等も手掛けており、この度ご紹介いただいた各社の魅力や商品案内の動画作成を通して、顧客満足に応えることができたら嬉しい。
(C 広告制作会社様)

広告制作会社

- ウェブデータ、グラフィックデータの作成、HPの作成およびメンテナンス

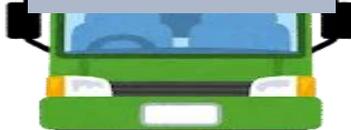
ふくぎんBMS



縫製業



運送業



不動産



食品卸



自動車学校

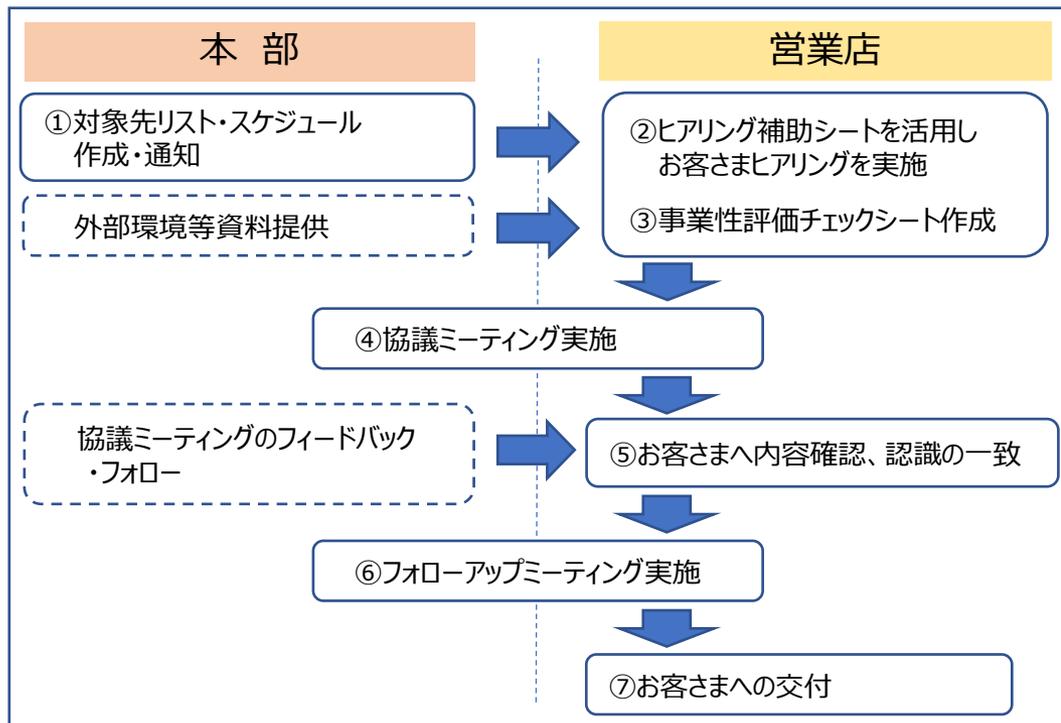


当行フロアビジョンの動画作成先を探していた

～ お客さまの課題解決や本業収益改善に向け計画を共に策定 ～
事業計画策定支援を通して、お客さまの本業を伴走支援する取組み

- 「本部による計画策定支援」や、「本部と営業店により1先ごとに事業性評価ミーティングによる計画策定支援」において、お客さまの課題解決をご支援
- コロナ禍におけるお客さまの課題解決や本業支援改善に向けた計画を共に策定し、課題解決に資する商品やサービスをSBIとの連携によるリソース等を活用し、本業を伴走支援する取組み

【事業性評価ミーティング フロー図】



事業性評価ミーティング 実績・計画

(先)

	2021年度 実績	2022年度 計画
事業性評価ミーティング実施先	167	182

事業計画策定支援 実績・計画

(先)

	2021年度 実績	2022年度 計画
事業計画策定支援先	33	45

～ 次世代バンキングシステムの構築 ～

金融機関の心臓部「**基幹系システム**」を2024年中に稼働予定

- 当行とSBI、フューチャーアーキテクトの3社で、「**クラウドサービス (AWS)**」*1上に新システムを設計・構築。（*1インターネット経由でサーバーやネットワーク設備を利用できる仕組み）
従来、数年に1度の大規模システム更新時に多額投資が必要であったが、年間利用料モデルに移行し、**システムコストの平準化を実現**
- お客さまは伝票を記入する代わりに、**店頭タブレット端末から簡単操作で入出金等が可能**。窓口業務の効率化を図り、**お客さまへのご提案や相談業務の充実を図る**
- 「**オープンAPI**」*2により、様々なチャネルやデバイス（機器）からアクセス可能となり、システム機能の新規・追加開発が低コスト・短期間で実現。**最新サービスへの対応が柔軟かつスピーディー**になり、お客さまへ最新の金融商品・サービスを素早く提供可能
（*2システム接続仕様を外部事業者に公開しアクセスを認め、フィンテック事業者等と連携しやすく安全なサービス提供が可能な仕組み）

～ 次世代バンキングシステムの構築 ～

《 営業店 イメージ図 》

